

ごあいさつ

「ふるさと名取の歴史展」は今回で18回目を迎えます。市全体を対象に時代やテーマ別の展示、速報的な発掘成果展示などを中心として開催してきました。26年度からは、それぞれの地域に身近にある「お宝」を見つめ直し、各地域、ひいては名取の魅力を再発見することを目的とした数回シリーズの地域展を開催しています。今回はその第3回目として、市東部の平野部に位置する増田・下増田・閑上地区を紹介した展示になっています。

下増田・閑上地区は、平成23年3月に発生した東日本大震災の津波で甚大^{じんだい}な被害を受け、文化財の中にも残念ながら失われたり、修復困難な被害を受けたものがあります。

市では「名取市震災復興計画」を策定し、官民が連携し協

働のなかで復旧・復興のまちづくりを進めてきました。また、復興まちづくりのよりどころとして、地域に残された文化財の適切な保存・継承を進めるために「名取市歴史文化基本構想」の策定に向けての調査も進めています。

なお、復興に関連した発掘調査を実施してきた中での成果の一部を紹介するとともに、市民の方々からの寄贈資料も紹介しています。あわせてご覧いただければ幸いです。

最後になりましたが、今回の展示に関してご協力いただきました関係機関、関係者の皆様に厚く感謝申し上げます。

平成28年11月
名取市教育委員会
教育長 瀧澤 信雄

お宝いっぱいのお宝の増田・

下増田・関上地区

『お宝』 いっぱいの増田・

下増田・閑上地区

今回紹介する地区は、名取川の流域に広がる平野部に位置しています。

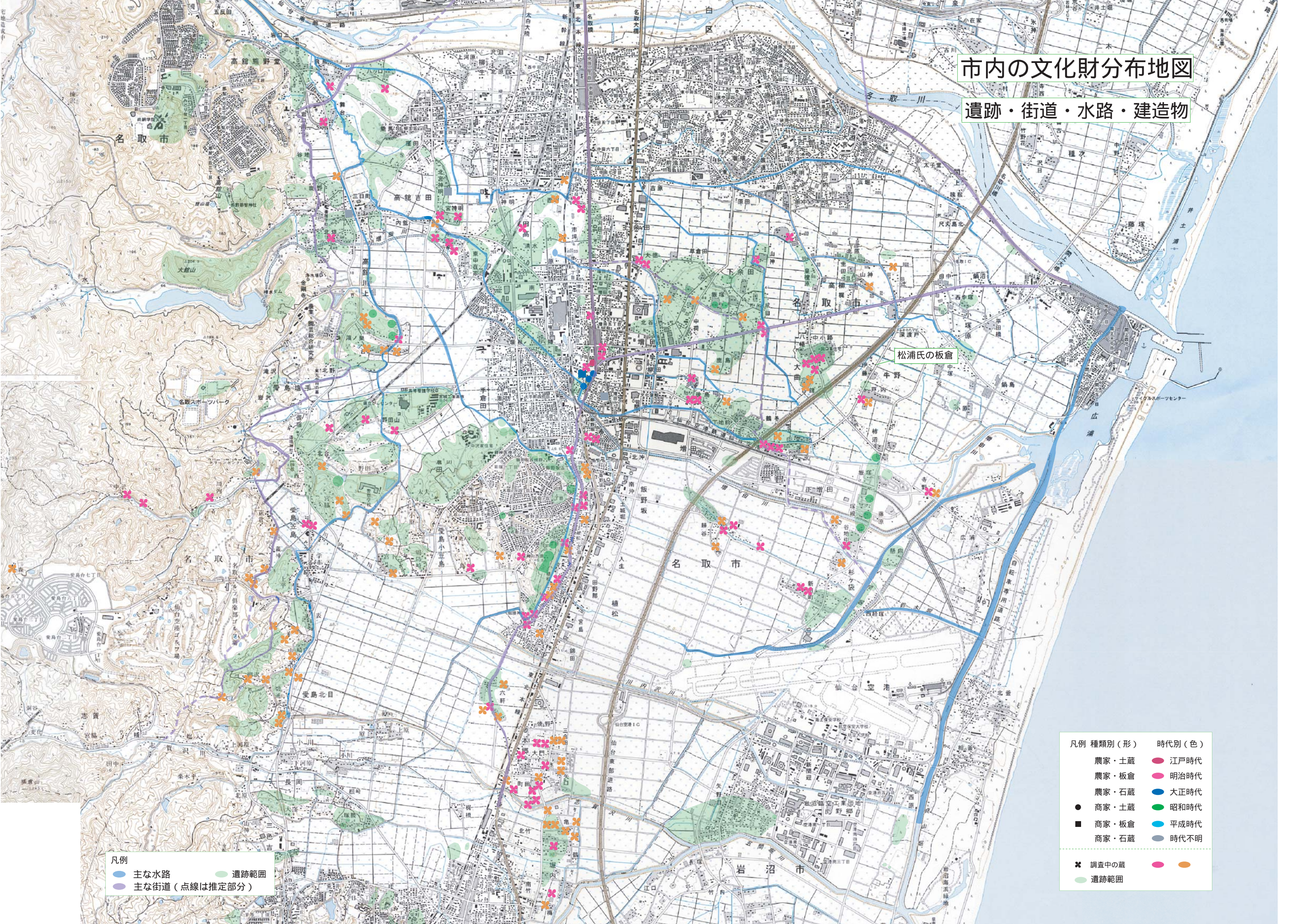
増田・下増田地区では、弥生時代以降自然堤防や浜堤上ひんていに人々が定着し、稲を育てムラを作り始めました。その豊かな生産力は、経ノ塚、天神塚古墳など多くの古墳を作りました。

平野部の陸地化が進み、街道が整備されると市街地が広がり、増田村は宿駅として整備されました。

閑上は漁港として発展し、交通の要所として人々が交差し、水と共生する場として栄えました。河口部には貴重な自然環境が多く残され、内陸部には緑豊かな水田環境が広がり、洞口家に代表される“いぐね”と水に囲まれた美しい景観を形成しています。

市内の文化財分布地図

遺跡・街道・水路・建造物



松浦氏の板倉

| 凡例 種類別(形) | 時代別(色) |
|-----------|---------|
| ● 農家・土蔵 | ● 江戸時代 |
| ● 農家・板倉 | ● 明治時代 |
| ● 農家・石蔵 | ● 大正時代 |
| ● 商家・土蔵 | ● 昭和時代 |
| ■ 商家・板倉 | ● 平成時代 |
| ● 商家・石蔵 | ● 時代不明 |
| ✳ 調査中の蔵 | ● 調査中の蔵 |
| ● 遺跡範囲 | ● 遺跡範囲 |

| 凡例 | |
|-----------------|--------|
| ● 主な水路 | ● 遺跡範囲 |
| ● 主な街道(点線は推定部分) | |

地名からわかる

土地やむかしのようす

土地の名前である地名にはその名がつけられた理由があり、それを調べると土地のようすやむかしのことを知ることができます。

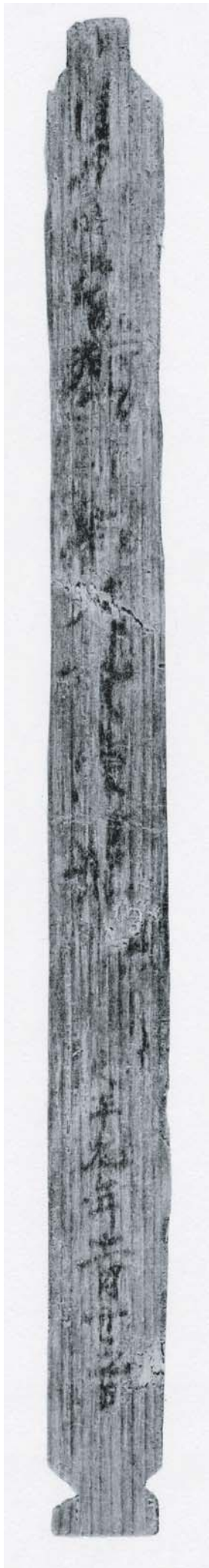
今回の地区には、地名にまつわる伝承を持つものが多くあります。

「閑上」の地名は、海岸から観音様が波

にゆられてあがってこられたので「ゆりあげ浜」と呼ばれるようになり、また、

「閑」の字は、仙台藩の藩主が山門内から波打つこの海岸を見て漢字をあてたと伝えられています。

みなさんがお住まいの地名はどんな理由でつけられたのでしょうか。



奈良県・平城京の発掘調査で
出土したものです。荷札の裏
表に「陸奥国名取郡□□布御
贄壺籠／ ○天平元年十
一月十五日」と書かれていま
す。
(天平元年は729年です)

文字に現れた”名取”